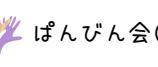
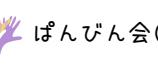
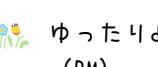
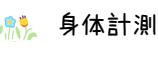
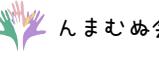
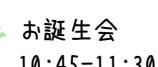
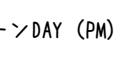


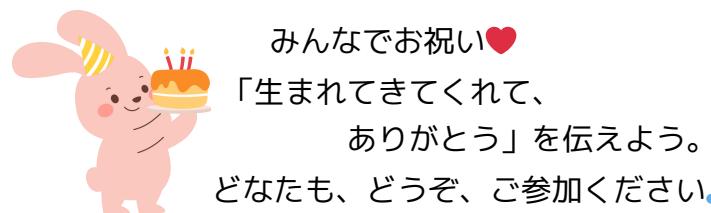
## 12月 じどうかん・子育て支援センターだより

【令和7年12月発行】  
 発行：宮古島市ぐすぐべ児童館（77-8533）  
 城辺地域子育て支援センター（77-8532）  
 住所：宮古島市城辺字福里877-1  
 運営：一般社団法人沖縄こどもみらい創造支援機構

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5  カレンダー製作	6
7 	8  ぱんびん会(PM)	9  読み聞かせ	10	11	12  ゆったりday (PM)	13  こどもみらい食堂 移動図書館
14	15  身体計測	16	17  んまむぬ会(PM)	18  お誕生会 10:45-11:30	19	20
21	22	23	24	25  OOさんとあそぼう！ クリスマスバージョン	26  クリーンDAY (PM)	27
28	29  休日	30  休日	31  休日	ぐすぐべ児童館 子育て支援センター 城辺交流施設	「あ！城辺へ行こう！」 なにかあつたら、いらっしゃい。 なにもなくても、いらっしゃい。 みんながふらり立ち寄れる。	

## 12月生まれのお誕生日会

日時：12月18日（木）10:45～



## 【ゆったりdayのご案内】

12月12日（金）の午後は、育児相談の時間です。  
 大勢の雰囲気が苦手な方や相談がある方、  
 ゆったりとした雰囲気の中で一緒にお話ししませんか。

じ  
ど  
う  
か  
ん  
も  
あ  
る  
よ

はなし  
そっと 話をきかせてよ  
いき  
ほっと ひと息ついてほしい  
ちから  
きっと 力になれるとおもう

じどうかんは ここにあります

## &lt;年末年始の開館日について&gt;

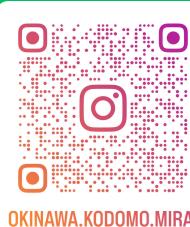
年内の開館は、  
**支援センターが26日（金）**  
**児童館・交流施設が27日（土）**  
 までです。  
 年明けは、全施設とも  
**1月5日（月）から開館**  
 となります。  
 どうぞ、各ご家庭で、  
 良い年をお迎えくださいね。

## 【公式SNSのご案内】公式Webサイト

施設の最新情報をすぐお届け！  
 みなさま、ご登録ください♪



Instagram



Facebook



X

みんなでたべるしあわせ  
こどもみらい食堂

12月13日(土)12:00～13:00  
 メニュー：うれしいカレーライス  
 もちもの：お弁当箱とスプーン  
 ☆こども、おとな、どなたでも、どうぞみんなで、いらっしゃい♪



無料

## 【OOさんとあそぼう！】

12月25日（木）16:00～  
 今月の「OOさんとあそぼう！」は…  
 クリスマスバージョンだよ！  
 ドキドキワクワクで遊びにきてね♪

## 【んまむぬ会】

12月17日（水）15:30～  
 みんなで「たべる」をたのしもう！  
 今回の「んまむぬ」は…？



## 【ぱんびん会】

12月8日（月）15:30～  
 ぱんびん会って？ ぱんびんを食べるのかい？ 「ぱんびん」ってなんだ！？  
 それはね…参加してのお楽しみ！♪

【館長のひとりごと】

レッジョ・エミリアの詩にある「子どもは100の言葉をもっている」というあの一節を、  
 僕は子どもたちと過ごす日々の中で、何度も思い出します。  
 声にならない言葉。まなざしの奥で光っている言葉。手のひらの動きに宿る言葉。静けさの中でしか聞こえない言葉。  
 子どもは、そうやって世界と対話しているように思うのです。  
 正しさでもなく、効率でもなく、"わたしは、いま、これを感じている"  
 そんな純度の高い表現を、惜しげもなく放ってくれます。  
 けれど、大人はときどき、そこに「余計なもの」をさしはさんでしまう。  
 急がせたり、整えたり、意味を与えようとしたり…。  
 子どもは、自分の力で「育ちの道筋」を見つけられているのに、  
 気づけば僕ら大人が、その道を先回りしてしまうことがあります。  
 最近、ある子が砂場で黙々と山をつくっていました。おそらく意味など無く、ただ、触りたかったのだと思います。  
 ただ、その手触りの向こうにある世界を確かめたかっただけなんだと思います。  
 でもそこへ誰かが、「何つくるの？」、「こうしたほうがいいよ」と入り込んだ瞬間に、  
 子どもが持っていた“そのときだけの100の言葉”が、そっとポケットの奥にしまい込まれてしまう。  
 子どもの「言葉」は、本当に繊細で、触れようとすると消えてしまうようです。  
 でも、確かにそこにあって、その子の今を形づくっている大切な“育ちの力”。  
 だからこそ思うのです。大人の僕らが少しだけ歩みをゆるめて、子どもたちのもつ“100の言葉”に耳を澄ませてみたい。  
 説明しなくていい。うまく言わせようしなくていい。「こうあるべき」も、いたん脇に置いてみる。  
 ただ、そばにいる。ただ、感じていることを感じたまま受け取る。  
 それだけで、子どもは自分の言葉を取り戻すのだと思います。  
 そして、大人である僕らもまた、忘れかけていた自分の“100の言葉”を思い出せるかもしれません。  
 子どもたちが見ている世界を、そっと分けてもらひながら、  
 一緒にその日その日を味わっていかけたのなら、なによりうれしいことでしょう。